

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 21年11月－自動車を中心に輸出が持ち直し

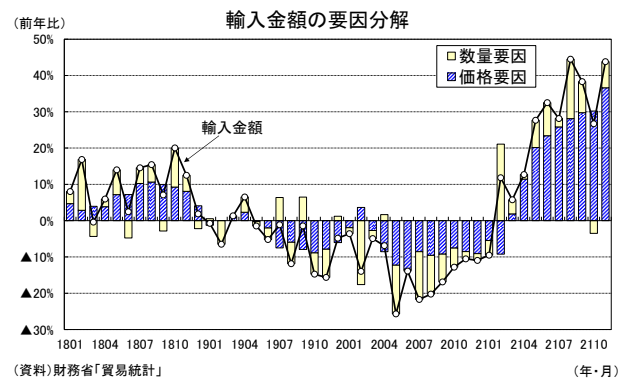
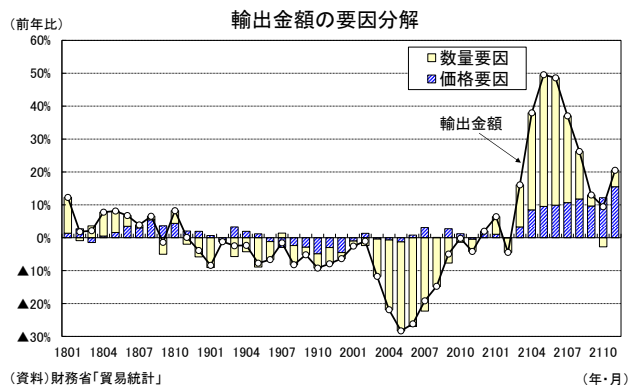
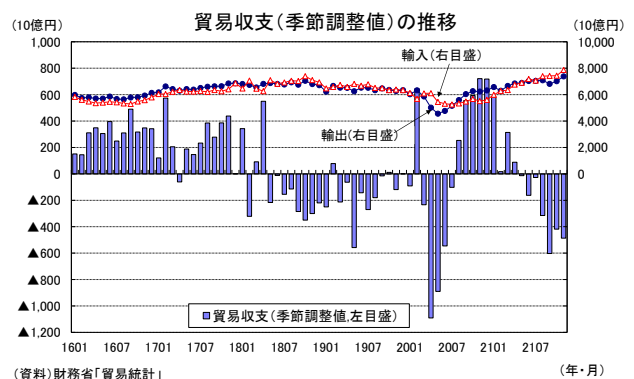
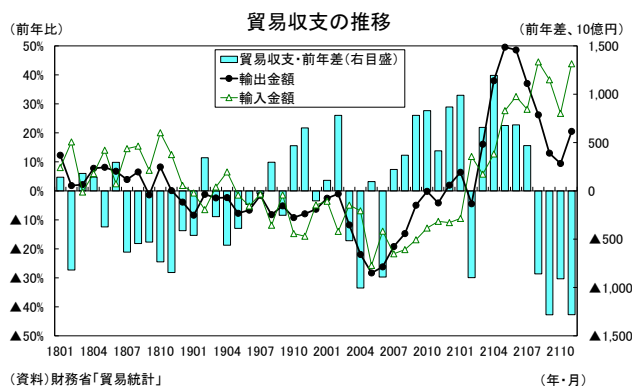
経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 自動車輸出が増加に転じる

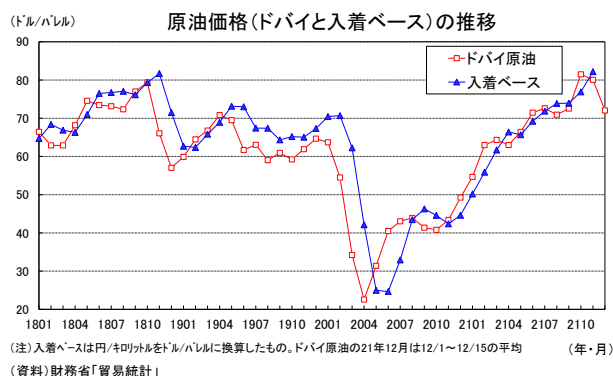
財務省が12月16日に公表した貿易統計によると、21年11月の貿易収支は▲9,548億円の赤字となり、事前の市場予想（QUICK集計：▲6,750億円、当社予想は▲8,570億円）を下回る結果となった。輸出が前年比20.5%と10月の同9.4%から伸びを高めたが、原油高の影響などから輸入が前年比43.8%（10月：同26.7%）と輸出の伸びを大きく上回ったため、貿易収支は前年に比べ▲12,807億円の悪化となった。供給制約に伴う生産調整の影響で大きく落ち込んでいた自動車輸出は前年比4.1%（10月：同▲36.7%）と3ヵ月ぶりの増加となった。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比4.7%（10月：同▲2.6%）、輸出価格が前年比15.2%（10月：同12.3%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比6.1%（10月：同▲3.0%）、輸入価格が前年比35.5%（10月：同30.7%）であった。



季節調整済の貿易収支は▲4,868億円と7ヵ月連続の赤字となり、10月の▲4,183億円から赤字幅が若干拡大した。輸入が前月比5.9%の増加となり、輸出の伸び(同5.3%)を上回った。

11月の通関(入着)ベースの原油価格は1バレル=82.2ドル(当研究所による試算値)となり、10月の76.9ドルから上昇した。原油価格(ドバイ)は日米の石油備蓄放出やオミクロン株への懸念などから70ドル台前半まで下落している。通関ベースの原油価格は12月に80ドル台となった後、22年1月には70ドル台後半まで低下することが見込まれるが、輸入価格は高止まりするため、貿易収支(季節調整値)は当面赤字が続く可能性が高い。

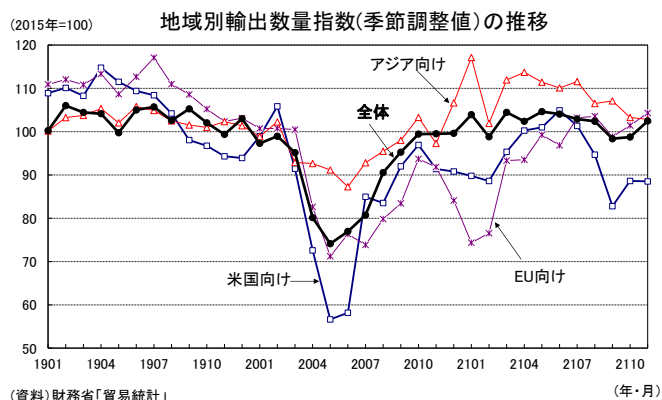


2. 国内の自動車生産も回復へ

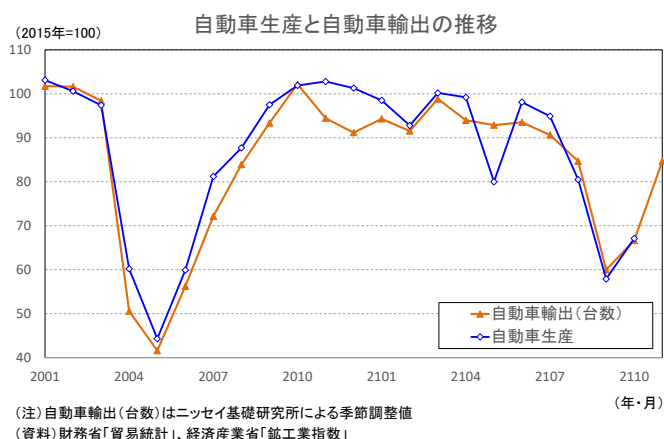
21年11月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲2.9%(10月:同▲8.2%)、EU向けが前年比10.9%(10月:同5.3%)、アジア向けが前年比5.5%(10月:同▲0.2%)、うち中国向けが前年比▲2.1%(10月:同▲4.4%)となった。

21年11月の地域別輸出数量指数を季節調整値(当研究所による試算値)で見ると、米国向けが前月比▲0.1%(10月:同7.1%)、EU向けが前月比2.8%(10月:同2.6%)、アジア向けが前月比▲0.4%(10月:同▲3.6%)、中国向けが前月比0.4%(10月:同▲5.6%)、全体では前月比3.8%(10月:同0.4%)となった。

輸出は全体としては持ち直しているが、米国向け、アジア向けは弱い動きとなっている。自動車輸出は前年比で増加に転じたが、米国向けは前年比▲11.5%と減少を続けており、このことが米国向け輸出の弱さにつながっている。



自動車輸出を台数ベースで見ると、10月の前年比▲35.7%から同▲8.5%と減少幅が大きく縮小し、季節調整値(当研究所による試算値)では、21年9月に前月比▲29.2%と急速に落ち込んだ後、10月が同11.1%、11月が同27.2%と急回復している。自動車輸出の回復を踏まえれば、10月に4ヵ月ぶりに増加に転じた国内の自動車生産は11月に増産ペースが加速する可能性が高いだろう。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。